



大牟田市の安田昌則教育長(左)にSDGs日めくりカレンダーを寄贈するグリーン・シップの田中明子社長

# SDGsカレンダー 大牟田市教委に60冊

調査会社寄贈

国連が掲げる「持続可能な開発目標（SDGs）」に取り組んでいる調査会社「グリーン・シップ」（東京）がSDGsを楽しく学ぶ日めくりカレンダーを制作し、12日に大牟田市教育委員会に60冊を寄贈した。全19小学校の5年生の各クラスに配布される。同市教委が昨年12月、国が表彰するジャパンSD

Gsアワードの特別賞を受賞したことや、田中明子社長が同市出身であることから今回の寄贈になった。

カレンダーは広告代理店「東弘」九州支社（福岡市）が企画・制作。卓上型のA5判で「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」など17のゴール（目標）を掲げ、世界の現状をクイズ形式で学ぶことができる。さらに「食べ残しや買い過ぎをしないようにしよう」など、すぐに実践できる取り組みも紹介している。

同市の教育長室で贈呈式があり、安田昌則教育長から感謝状を受け取った田中社長は「カレンダーを通して、児童がSDGsに興味を持つきっかけになれば」と話した。（立山和久）

大牟田

## SDGs達成に活用を グリーン・シップ 児童へカレンダー



カレンダーを手渡す田中社長（中央）

持続可能な大牟田市のまちづくりへ、東京都千代田区のグリーン・シップ（田中明子社長）から同市立小学校5年生クラスへの「SDGs日めくりカレンダー」の贈呈式が12日、市役所であった。ESD（持続可能な開発のための教育）、SDGs（持続可能な開発目標）を推進する市の取り組みに、同市出身の田中社長は「育ててもらったふるさとの、素晴らしい活動を誇りに思う」と話し、市教育委員会の安田昌則教育長に手渡した。

同市の全ての市立学校はユネスコスクールに加盟

し、ESDを推進。「ユネスコスクールのまち おおむた」としてESDの充実に図り、SDGs達成へまちづくりを進め、ジャパンSDGsアワードの特別賞受賞など評価も得ている。

旧駿馬北小、旧米生中、三池高校出身の田中社長は、同市の活動を知って今回寄贈。同社は次世代型の新たな手法による選挙の調査を行い、特に若者の意見を届けようと発信を続け、回答に寄付の仕組みも取り入れているという。

式には田中社長と、カレンダーの制作を担当した東弘の九州支社から安永悦司

参加が出席。安永参事も同市のSDGsの取り組みに感銘を受けたという。

カレンダーはSDGsの17の目標を、日別にクイズ形式で学び、自分たちができることも考えられるよう工夫。児童の日々の学習場面で活用される。

安田教育長は感謝状を手渡すとともに「未来を担う子どもたち。これからの世代も幸せな、持続可能なまちにしていかなければ」などと述べ、謝意を表した。

（高田 裕子）